

沖縄・多良間島での環境再生事業

現在、私どもが取り組んでいる沖縄県多良間島での環境保全事業「クヴァ・メールプロジェクト」において、協働をして頂けるパートナーを探しています。提案させていただく事業は、霞ヶ浦流域で培ってきたアサザプロジェクトの手法をモデルとしています。

多良間島の概要

多良間島は宮古島と石垣島のほぼ中間に位置し、面積は約19平方キロメートル、人口は約1300人の小さな島です。多良間島は隆起サンゴ礁からなり、島全体が平坦で海拔34メートルと日本一低い島で、美しいサンゴ礁と共に亜熱帯の独特の景観を有しています。ヤエヤマオオコウモリやオオゴマダラなど野生生物の宝庫です。主要な産業はサトウキビ栽培です。多良間産の黒糖は他の産地よりも高い評価を得ています。

古くからの伝統文化の残る沖縄でも数少ない島として知られており、とくに毎年村人総出で行なわれる八月踊り（豊年祭）は、国指定重要無形文化財で、今年ユネスコの世界無形遺産にも指定されます。島への定期便が39人乗り飛行機が一日2便、フェリーが1便しかないため、観光化されていない島の素朴な生活や文化が残されています。

島の水源はすべて地下水に依存しています。島の地下水（淡水層）は僅か4mしかなく海水の上に浮かんでいる状態（淡水レンズ）にあり、保全への配慮を怠ると将来生活に利用できなくなる恐れがあります。実際現在すでに地下水汚染が始まっており、対策が急務となっています。

御社に提案されて頂く協働事業の概要

多良間島で進行している地下水汚染を食い止め、島の人々の生活と豊かな亜熱帯の自然環境、伝統文化を守ることを目標とします。そのために、現在地下水汚染の主原因となっているサトウキビ栽培の改善を促すことを目的に、環境保全型栽培のサトウキビのブランド化を図ります。（例えば、黒糖や黒糖を使ったソフトクリーム、アイス、菓子などの開発や、八月踊りをデザインしたブランド品。他に、塩や多良間牛等もあります。）

上記の環境保全型農業の推進には、農場へのフクギなど伝統的な防風林に再生やトンボやカエル、ヘビなどの生息に適したビオトープを設置し生物多様性の保全も行ないます。

また、これらの取り組みを地元の多良間小学校の総合学習と一体化し、子どもと大人が協働で進めるブランドづくりとして実施します（添付資料「クヴァ・メールプロジェクト」をご参照ください）。すでにこのプログラムに沿った学習を、アサザ基金の飯島が多良間小学校で実施しています。この出前授業は、地元の村役場や教育委員会、地域住民の協力を得て行なっていますので、地元での連携体制は十分に整っています。

多良間島では現在はまだ少数の農家が環境保全型のサトウキビ栽培を試みている段階ですが、島の若手農家たちを中心に子ども達の提案に応える動きが出ています

さらに、上記のクヴァ・メールプロジェクトに連携した脱温暖化イベントを原宿表参道で地元商店会と実施する計画も進行中です（経産省のモデル事業として企画）。

御社に御協力を頂きたいこと。

1. 多良間島の自然と暮らし、伝統文化を支える地下水の保全を進めるために、同島の黒糖を利用した御社ブランドの開発をご検討ください。
2. 同ブランドづくりに多良間小学校の学習を活かしてください。
3. クヴァ・メールプロジェクトへの参画をお願いします。多良間島での学習プログラム実施への支援（ブランドづくりアドバイス、旅費など）や、原宿表参道での脱温暖化イベントへの参加など。
4. ブランド品の売り上げをとおして、多良間小学校での学習や八月踊りの継承、ピオトープづくり等に必要経費を賄う仕組みづくりへの協力。（例えば、八月踊りは集落の共有地で栽培したサトウキビの売り上げ金や寄付金で運営しています。）

御社に期待される効果

1. 生物多様性や水の保全などを、比較的小さな島で実施する事業なので全体目標が立てやすく、お客様に対しても全体成果を伝えやすい。
とくに、同島の地下水保全への取り組みは重要で、分かりやすく説得力がある。
2. 沖縄諸島でも伝統文化や自然が残された数少ない多良間島での取り組みは、各方面から注目や共感を集めることが期待できる。とくに、本年は COP10 が名古屋で開催され、同島の八月踊りがユネスコ世界無形遺産に指定されます。
3. 島の小学生や住民と一緒にブランドづくり（価値創造的取り組み）を行なうことで、御社の新たな商品開発や販売戦略につなげていくことが期待できる。

これまで、多良間島での取り組みに対しては、内閣府関連の事業として出前授業への旅費等の費用が出ていましたが、この支援が今年度で打ち切りとなってしまいました。また、多良間島での環境保全等への取り組みに参加している企業はまだありません。2009年度に始まった多良間小学校での学習を起点としたプロジェクトはこのままでは立ち消えとなる可能性が大です。現在進行中の本プロジェクトを本業に活かして頂ける企業をさがしています。

2010年4月7日

NPO 法人アサザ基金 代表理事 飯島 博